

2017 年月 12 月 23 日

学生活動担当理事講演会（元 UD トラックス株式会社 時田 貴史 氏）
「VOLVO Integration」 ～グローバル企業への移行～

実施報告書

企画担当責任者
(公社)自動車技術会関東支部 学生自動車研究会
工学院大学機械工学科 B3
高野 拓郎

1. 企画概要

● 目的

本企画は月に一度の学自研委員会の機会を有効に活用し、将来自動車産業に関わる学生に向けて理事の実経験をもとに講演会を開催するものである。学生委員と学生担当理事との相互理解を深め、更なる学自研の活性化と将来の自動車産業における人材育成に繋げていくことを目的とする。

● 開催場所

日本大学理工学部駿河台校舎 7 号館 5 階 752 教室

● 開催日

2017 年 8 月 26 日（土） 10:00～12:00

● 参加条件

学生であること

● 講演者

関東支部学生活動担当理事会理事
元 UD トラックス株式会社
時田貴史 様

2. 講演内容

時田理事自身の経歴になぞらえて、日産ディーゼル工業入社から 2006 年 VOLVO 資本参加、完全子会社化を経て UD トラックス株式会社へ社名変更に至りその後、時田さん自身の立場から感じた変化についてお話をいただいた。

国際化とグローバル化の違いについて、前者は国家間で相互に共同して行動し、互いに影響を与え合う環境。後者は社会的、経済的な関連が国家の境界を越えて、地球規模に拡大して様々な変化を引き起こす状況と位置づけたうえで VOLVO への統合における事例を

① 組織の統合

② 予算の統合

③ グローバル開発プロセスの導入

④ 収益性を基にした商品の選択と集中

⑤ ブランドマネジメントの重要性

⑥ 英語でのコミュニケーション

に大別してお話しされた。

①.組織の統合、②.予算の統合、③.グローバル開発プロセスの導入では、開発拠点が世界各地に点在する状態であるため開発者も同様に点在する。そのため全体最適を図り取り入れられている、開発拠点と設計部門のマトリックス組織についてご紹介していただいた。

例として、個人個人が開発拠点という単体の組織に所属しながら、拠点の境を持たない設計部門ごとの組織にも所属している状態である。これにより日本にいたとしても他国の開発拠点に在籍するメンバーと同じ部門に所属し、共同開発を行うこととなる。このような組織体制が種々の部門毎に連なった状態がマトリックス組織である。

またこのような組織体制を取り入れた状態で行われる予算の振り分けの形態に関して、世界各地に存在する各開発サイトの開発費用を一度統合し、そこから各トラックブランドである VOLVO、RENAULT、MACK、UD に再分配する形態が取り入れられていることなどをご紹介していただいた。

グローバル開発プロセスに関して、VOLVO では、プロジェクト規模の大きさにより会議体を区分し、全てのトラックブランドの開発プロセスの統一を行っており、プロセス内で段階的に開発の STOP&GO を繰り返し行うチェック体制となっていることを挙げられた。

④. 収益性を基にした商品の選択と集中 では、商品開発における目的を明確に収益性の重視に定め、開発の比重を収益際の高い部門へ置くといった明確な方針が定まっていることを挙げられた。場合によって開発を切り捨てるこ

とも挙げられ、淡泊にも感じられる徹底した合理性が伺えた。

⑤. ブランドマネジメントの重要性では、VOLVO では運営に於いて、自社のブランドイメージの向上と維持を非常に重要視していることをお話ししていただいた。ここで挙げられたのはお客様にトラックを試乗していただき、乗り心地や運転性を体感していただくために設営されたコースや、UD ブランドを体感していただくためのセンターがあることなど、ブランドイメージ向上への取り組みについてご紹介していただいた。

⑥. 英語でのコミュニケーションに関しては、前述までのご講演の中でも幾度もこれに纏わるご体験のお話があったが、VOLVO 資本への参加に伴い企業体系がグローバル化され、公用語が英語に定められたことに始まり、同僚との会話、会議、公式書類などあらゆる面で英語でのコミュニケーションが求められることをご自身の経験から例を挙げてご紹介された。

最後にまとめとして、自動車産業へ進むことを視野に入れた学生に向け、自動車産業全体のグローバル化が進んでいるからこそ

- ・英語でのコミュニケーションの力
- ・ダイバーシティと相手への **Respect**
- ・日本のものづくりの自信と発信する力を養っていくべきであるとまとめられた。

3. 参加者による感想

以下参加者から寄せられた感想を示す。

- ・日系企業からグローバル企業への変遷の様子や苦勞、国民性の違いがわかり、興味深いものであった
- ・コミュニケーションの重要性や相手へのリスペクトは、仕事を進めていくうえで大変重要なものであるとわかった。
- ・仕事だけでなく家庭を含めて有効な関係を築くことは、仕事にも自身にもプラスになると思った。
- ・今後自身の就活や研究においても、これらの事柄を大切にしていきたい。
- ・企業の形態に合った組織体制の取入れや、開発への姿勢の柔軟さが印象的だった。

4. 感想

今後自動車業界に関わっていくつもりである身としては直面していく自分たちに関わり深いお話を聞かせていただくことができた。

母語以外を用いたコミュニケーション、特に英語による会話は、多くの企業でグローバル化の囁かれるいま強く求められるスキルであることを、時田理事ご自身のご経験を聞かせていただき改めて意識させられた。

5. 最後に

今回の講演会では時田理事による日本企業としての側面とグローバル企業となったその後の側面との二つを経験された視点からのお話をお聞きすることができ、グローバル化の進む自動車産業に関わっていくうえでの心構えを養う機会にすることができたと感じる。

またこのような理事講演会の開催の継続に伴い、本企画目的に対し一定の成果が得られたと考える。

6. 謝辞

第2回開催となる理事講演会管理を担当させていただき、手続きの至らなさ多々あったと思いますが時田理事始め松園さん、植村さんのご指導により開催することができました。ご講演、ご協力誠にありがとうございました。